卒業にあたって

機械工学科5年　**野々垣　雄太**

時の流れは残酷で、巡りゆく季節を肌に感じながら過ごした5年間は私たちを大きく変え、右も左もわからない、あどけなかった少年・少女達は、すっかり大人びた風貌になり、散りゆく桜の下に立っていました。それぞれの夢や希望を胸に抱き、すこし緊張した面持ちで初めて校門をくぐった5年前のあの日から、僕の高専生活は始まりました。どこかぎこちなかったクラスの雰囲気も、時が経つにつれ、笑いの絶えないものになり1日が過ぎ去るのがとても早く感じました。なんでもないことで笑いあえる仲間と過ごすことのできた、この5年間は人生において貴重な財産になることだと思います。また、クラブ活動を通して、得た財産も僕にとっては大きいものです。同じ目的のもの同士が集まって、楽しいことをしていたはずなのに、いつしか各々の考えていることがわからなくなったり、いろいろな人間関係に頭を悩ませたり・・・と様々な問題を前に、自分自身とは何か、自分の存在意義は何なのかを問う日々の繰り返し。正直、自分を見失いおかしくなりかけたこともありました。けれども、そのような経験があったからこそ、いまの自分があるのだと思います。クラブ活動をしていて失った物も多いですが、それ以上に得られたものの方が大きいように感じます。基本的には楽しく過ごしていた高専生活ですが、学問という壁は、僕の目の前に大きく立ちはばかりました。もともと、勉強は好きではないのですが、定期試験のために必死に勉強したことも今となっては、いい思い出です。最後になりましたが、5年間お世話になった先生方、本当にありがとうございました。専攻科に入学してからもよろしくお願いします。

電気工学科5年　学級担任　**藤 井　治 久**

皆さん、卒業おめでとうございます。奈良高専生活で苦楽を共にしてきた同級生と別れ、ひとりひとりが新しい人生の道のりを歩んで行くことになります。

ある人は就職、ある人は進学。進学する人も大学・専攻科で一層の基礎技術力を身に付け、いつかは就職します。

私も大学を出てから企業に永らく勤めた後、奈良高専に来ましたが、私が企業にいた時代はある意味日本の企業が輝いていた時代で、技術者としてよき会社生活を送れたと思っています。しかし、これから皆さんが就職する日本企業は、必ずしも明るい未来が約束されているわけではなく、厳しい環境が待ち受けています。それに立ち向かっていく強い信念と、磨きをかけた自分の技術者としての技術力を持って、日本の将来を明るいものにしていってもらいたい。

私が奈良高専に来る前に働いていた企業の元社長が、次のような言葉を残されています。

「仕事が人を育て、人が仕事を拓く」（志岐守哉氏）

私はこの言葉が大好きで、仕事の取り組みに対する心のよりどころとしています。自分の仕事に対して限りなく挑戦することによって、目指した目標を達成できると、人は仕事に対し自信を持ち、心身の爽快さを覚え、やがて自分を奮起させる。その奮起が、より高度な新しい仕事へと駆り立て、その努力の積み重ねによって人は大きく成長すると共に、仕事に拡がりを持つようになり、社会の進歩に貢献していくのです。

皆さんは、奈良高専で電気技術者としての基礎的な素養を学び、身に付けたと思います。それを、就職する人は、その企業が長年培ってきた技術を仕事を通して自分なりのコア技術力として発展させていって欲しい。それがまた新しい仕事を生み出すことによって、社会に貢献していってもらいたい。また、進学する人は、大学や専攻科で基礎技術力を深化させ、いつかは就職する企業においてその技術力を発展させ社会に貢献していってもらいたい。「工学」は豊かな社会を造っていくために貢献するものです。

さあ、大いなる真昼の海へ旅立って下さい。